

てがたんレポート Vol. 4 No. 3 (2007年3月：通巻36号)

- ・観察コースと内容：鳥の博物館（コース案内と春の花の話）→横断歩道を渡り道路沿い→釣り堀わきの田んぼの畦（春の草花さがし）→水神山古墳下の田んぼの畦（在来タンポポとセイヨウタンポポの話）→市民農園前の遊歩道（望遠鏡で手賀沼の鳥観察）→遊歩道（ヨシ原のオオジュリンなど観察）→遊歩道脇の芝生広場（渡り鳥の話）→釣り堀前広場（まとめ&自然遊び&お知らせ&解散）
- ・観察日時/天気：2007年3月10日（土）10:00~12:00/晴れ
- ・参加人数：21人（うち小学生2人）
- ・観察案内&記録ボランティア・スタッフ（敬称略・五十音順）：伊東茂子、小野寺喜四郎、小泉伸夫、弘実さと子、古川克彌、保田行弘
- ・鳥博職員：斉藤安行、村松和行

・今回のテーマ
春の草花
・案内人
弘実さと子

観察記録—3月に観察した生き物リスト—

★観察した生き物

【鳥類】 カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ホシハジロ、バン、オオバン、タシギ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオシ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（32種）

（外来種や家禽が野生化した種）バリケン、シナガチョウ、ドバト

【昆虫】

- ・チョウの仲間：モンシロチョウ、キタテハ、テングチョウ（いずれも成虫）
- ・甲虫の仲間：ナミテントウ（成虫、幼虫）、ナナホシテントウ（成虫、幼虫）、コガタルリハムシ
- ・カメムシの仲間：ヨコツナサシガメ（幼虫）、アブラゼミ（卵）
- ・バッタの仲間：ヒシバッタ
- ・ハチやアリの仲間：クロヤマアリ、スズバチの巣

【クモ】 ゴミグモ

【両生類】 ニホンアマガエル

【は虫類】 アオダイショウ（干からびた死体）

【植物】

- ・木の花：コブシ、ハクモクレン、サンシュユ、ヒサカキ、ミツマタ、ヤブツバキ
- ・草の花：セイヨウタンポポ、ノゲシ、オニノゲシ、ノボロギク、オオジシバリ、ハハコグサ、ハルジオン、ヒメムカシヨモギ、ナズナ、タネツケバナ、スカシタゴボウ、タガラシ、リュウキンカ仲間のつぼみ（栽培品種あるいは山野草として栽培されている株の人為的な持ち込みと思われる）、オランダミミナグサ、コハコベ、ノミノフスマ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、カキドオシ、キュウリグサ、トキワハゼ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、カタバミ、スズメノカタビラ、スズメノヤリ、畑に白菜と小松菜の花
- ・その他：スギナとツクシ（スギナの胞子体）、ハンノキ、ヤナギの仲間の新芽、アジサイの新芽、アレチマツヨイグサのロゼット、ハルジオンのロゼット、ヒメジョオンのロゼット、セイタカアワダチソウのロゼット、ハハコグサのロゼット、

3月の観察アルバム

①



市民スタッフの弘実さんから今日のテーマとスケジュールの説明

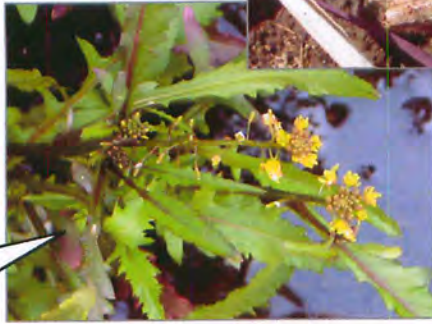
ニホンアマガエルも動き始めました



②



セグロセキレイがさかんにさえずっていました (ヒバリのさえずりに少し似ています)



田んぼわきのみその中にスカシタゴボウが咲いていました



ヒシバツタ (幼虫越冬)、成虫でも越冬するのでしょうか？

③

タンポポやツクシのこと、ハルジオンやハハコグサのロゼットについてお話を聞きました



※ おまけ！
「てがたん」終了後、博物館へ戻る途中、ケヤキの木にエナガが来ていました。



セイヨウタンポポの花粉に注目！3倍体の本種は受粉が不要な単為生殖。それでも生ずる花粉は、1n, 2n, 3nとゲノム数はまちまち。それを反映してサイズも大小混じり合うそうです。

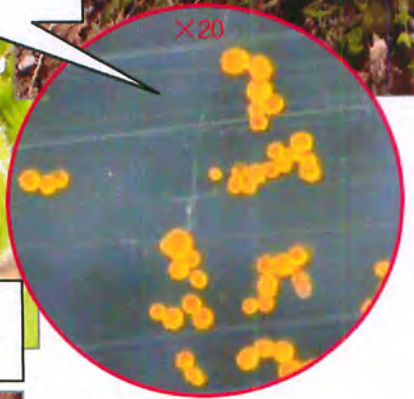


市民スタッフの保田さんが、竹で作った鳥笛を披露し、プレゼントしてくれました。

こんなところにリュウキンカのはつぼみが！人為的に持ち込まれたものと思われます



南斜面の土手には、カラスノンドウの花が咲き始めていました。



⑥



「てがたん」まとめの直前、人気者のカワセミが姿を現しました。



カキドオシ (シソ科) の花が咲いていました。葉をもむとハーブの香りが・・・。



枝が三又に分かれたミツマタ (ジンチョウゲ科) の花が咲いていました。中国南部原産で、江戸時代から和紙の原料として名の知れた木です。

